

古文文法

習熟度テスト②

解答

名前

古文文法 習熟度確認テスト②

1 接続

(1) 「接続」とは何かを説明しなさい。(3点)

何形にくっつくか。語の直後に別の語が付くこと。

(2) 助動詞の接続に関して、該当する助動詞を下の選択肢から選んで、次の表を完成させなさい。(各1点×28)

接続	助動詞
未然形	(11語) エ・カ・サ・タ・チ・ツ・テ・ナ・ニ・ヌ・ノ
連用形	(7語) ケ・コ・ス・セ・ト・ハ・ヒ
終止形 ※ラ変型Ⅱ連体形	(6語) イ・ウ・オ・キ・ク・シ
サ変未然形 四段已然形	(1語) フ
体言・連体形	(1語) ア
体言	(1語) ネ
体言・連体形 助詞「の・が」	(1語) ソ

ア	なり(断定)	イ	べし	ウ	らむ
エ	むず	オ	なり(伝聞推定)	カ	さす
キ	らし	ク	まじ	ケ	けり
サ	す	シ	めり	ス	き
				セ	ぬ
ソ	ごとし	タ	しむ	チ	む
				ツ	じ
テ	まほし	ト	けむ	ナ	ず
				ニ	らる
ヌ	まし	ネ	たり(断定)	ノ	る
ハ	たり(完了)	ヒ	つ	フ	り

2 助動詞「き」「けり」

(1) 助動詞「き」と「けり」が接続する語句の活用形を、それぞれ答えなさい。(各1点×2)

- ①「き」↓連用形
- ②「けり」↓連用形

(2) 助動詞「き」と「けり」の活用表を完成させなさい。(接続1点・活用表完答2点)

	接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
連用形		き	せ	○	き	し	しか	○
連用形		けり	けら	○	けり	ける	けれ	○

(3) 助動詞「き」「けり」の意味と訳し方を、それぞれ答えなさい。(各1点×6)

- 「き」…意味 直接／体験過去 訳し方 した
- 「けり」…意味 ①間接過去 訳し方 ①した・たそうだ
②詠嘆 ②よ・なあ

(4) 助動詞「き」「けり」には過去の意味で訳される場合、その意味のニュアンスの違いを説明しなさい。(3点)

「き」は自分が直接体験した過去のことを表すのに対し、「けり」は人から伝え聞いた過去のこと、つまり他人の経験を表す。

(5) 助動詞「けり」が詠嘆の訳になる場合を、4つ全て答えなさい。(各2点×4)

和歌中のけり
〔 〕
〔 なりけり 〕のけり
〔 〕
〔 べかりけり 〕のけり
〔 〕
〔 会話文中のけり 〕
〔 〕

(6) 会話文中で助動詞「けり」が用いられている場合、どのように意味の判断を行うのか、その方法と手順を説明しなさい。(3点)

意味は文脈によって判断する。その際、まずは詠嘆の意味で訳し、
それで文意が通らなければ過去で訳すようにする。

(7) 次の各文の空欄①～⑤に、助動詞「き」を適当な形に活用させて入れなさい。(各2点×5)

① 死に ¹ 子、顔よかり ²。
死んだ子は、顔がきれいだった。

〔 し 〕¹
〔 き 〕²

② 人知れずこそ思ひ ³。
人知れず思った。

〔 しか 〕³

③ 世の中にたえて桜のなかり ⁴ ば春の心はのどけからまし
もし世の中に全く桜というものがなかったならば、
春の人の心はのどかなものであっただろうに。

〔 せ 〕⁴

④ 小式部と呼ばれ ⁵ 人あり。
小式部と呼ばれた人がいた。

〔 し 〕⁵

(8) 次の各文の傍線部①～⑥が、助動詞「けり」であれば、過去の場合はA、詠嘆の場合はBで答えなさい。
また、助動詞ではない場合はCで答えなさい。(各1点×6)

①今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。¹

今はもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。

②山里は冬ぞさびしきさまさりける²

山里は、冬がとくに寂しさが強まるものだなあ。

③七夕まつるこそ、なまめかしけれ³

七夕祭りをとり行うことは、優雅で趣深い。

④「今宵は十五夜なりけり⁴」とおぼしいでて：

「今夜は十五夜であったなあ」と思い出しなさって：

⑤道知れる人もなくて、まどひ行きけり⁵。

道を知っている者としてなく、道に迷いながら旅を続けた。

⑥「命長きは憂きことにこそありけれ⁶」と思しけり。

「長生きするのはつらいことであるなあ」と思いになった。

(9) 次の各文の文中にある助動詞「けり」の活用形を、それぞれ答えなさい。(各1点×5)

①今の妻の志失せにければ、京に送りてけり²。さて本の妻となむ棲みける³。

新しい妻への愛情がなくなってしまったので、京都に送り返してしまった。

そこでもとの妻と一緒に暮らした。

5 B 5 A 4 B 3 C 2 B 1 A

1 已然形 2 終止形 3 連体形

②聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。⁴

聞いていたのにもまさって、尊い様子でいらっしやった。

③それよりなむ、少しうれしきことをば、かひありとは言ひける。⁵

そのことがあってから、少しうれしいことを「かひあり」というようになったということだ。

〔已然形〕⁴

〔連体形〕⁵

3 助動詞「ず」

(1)助動詞「ず」が接続する語句の活用形を答えなさい。(1点)

未然形

(2)助動詞「ず」の活用表を完成させなさい。(接続1点・活用表完答2点)

未然形	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず		ず	ず	ず	ぬ	ね	○
ざら		ざり		○	ざる	ざれ	ざれ

(3)助動詞「ず」の活用表(問②)に関して、「ず」の下に助動詞が接続する場合に活用するのは、本活用(活用表の右の列)と補助活用(活用表の左の列)のどちらであるかを、答えなさい。(2点)

補助活用(活用表の左の列)

(4) 助動詞「ず」の意味と訳し方を答えなさい。(各1点×2)

意味

打消

訳し方

しない

(5) 次の各文の空欄①～⑤に、助動詞「ず」を適当な形に活用させて入れなさい。(各2点×5)

① 京には見え¹ぬ鳥なれば、みな人見知ら²ず。

京都では見えない鳥なので、人はみな見知らない。

② 秋にはあら³ねど、あはれさ止ま⁴ざりけり。

秋ではないけれども、趣深さは尽きなかった。

③ 風の吹くことやま⁵ねば、岸の波立ちかへる。

風が吹くことがやまないので、岸の波も逆巻いている。

4 助動詞「たり」「り」

(1) 助動詞「たり」が接続する語句の活用形を答えなさい。(1点)

連用形

(2) 助動詞「り」が接続する語句の活用の種類と活用形を答えなさい。(各1点×2)

サ行変格活用 of 未然形・四段活用 of 已然形

(3) 助動詞「たり」「り」の活用表を完成させなさい。(右側 1 + 2・左側 2 + 2)

サ行変格活用 の未然形 四段活用 已然形	接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	連用形	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ
		り	ら	り	り	る	れ	れ

(4) 助動詞「たり」と「り」の意味と訳し方を、それぞれ答えなさい。(各 1 点 × 8)

「たり」

意味

- ①完了
- ②存続

訳し方

- ①〜た
- ②〜ている・〜てある

「り」

意味

- ①完了
- ②存続

訳し方

- ①〜た
- ②〜ている・〜てある

(5) 文中において、助動詞「たり」と「り」の意味を判断する手順を説明しなさい。(3 点)

まずは「存続」の意味で訳し、文意が通じない場合に「完了」の訳で考える。

(6) 次の各文の空欄①～⑥に、助動詞「たり」と「り」のどちらかを、適当な形に活用して入れなさい。(各2点×6)

① うつくしきもの。瓜にかき た¹ 稚児の顔。

かわいらしいもの。瓜に描いてある幼児の顔。

② つれづれなれば、物語をせ り²。

退屈だったので、世間話をした。

③ 木がいたづらに立て り³。

木が無駄に立っている。

④ 木をいたづらに立て た⁴り。

木が無駄に立ててある。

⑤ 御簾を高く上げ た⁵れ ば、笑はせ給ふ。

御簾を高く上げたところ、お笑いになる。

⑥ 道知れ る⁶ 人もなくて、まどひ行きけり。

道を知っている人もいなくて、迷いながら行った。

(7) 次の各文の傍線部①～⑤が存続であればA、完了であればBの記号で答えなさい。(各1点×5)

① 五十の春を迎へて、家を出で世を背けり。^①

② 常よりももの思ひたるさまなり。^②

A^②

B^①

③あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。③

④いと思ひのほかなる人の言へば、人々あやしがる。④

⑤「名にし負はば」と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。⑤

③ A ④ B ⑤ B

5 助動詞「つ」「ぬ」

(1)助動詞「つ」「ぬ」が接続する語句の活用形をそれぞれ答えなさい。(各1点×2)

「つ」… 連用形 「ぬ」… 連用形

(2)助動詞「つ」「ぬ」の活用表を完成させなさい。(各1点+2×2)

連用形	ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
連用形	つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ
接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

(3)助動詞「つ」「ぬ」の意味と訳し方を、それぞれ答えなさい。(各1点×8)

意味 ①完了 ②強意 訳し方 ①した ②きつと・必ず

「ぬ」

意味

- ①完了
②強意

訳し方

- ①～た
②きつと～・必ず～

(4) 助動詞「つ」「ぬ」が強意の訳になる場合、そのように判断する見分け方を説明しなさい。(3点)

助動詞「つ」と「ぬ」に接続する語句(真下の語句)を確認する。助動詞「つ」と「ぬ」の下に「推量・意志」の助動詞が接続している場合に、「つ」と「ぬ」の意味を「強意」と判断し、「きつと～だろう」、「必ず～しよう」のように訳す。

(5) 次の各文の空欄①～③に、助動詞「つ」を適当な形に活用して入れなさい。(各2点×3)

①年ごろ思ひ¹つる こと、果たし侍りぬ。

長年思っていたことを、果たしました。

②秋田、なよ竹のかぐや姫とつけ²つ。

秋田は、(その子に)なよ竹のかぐや姫と名づけた。

③この男、垣間見³てけり。

この男は、こっそりのぞき見てしまった。

(6) 次の各文の空欄①～③に、助動詞「ぬ」を適当な形に活用して入れなさい。(各2点×3)

①清見が関の波も高くなり¹ぬべし。

清見が関の波もきつと高くなるだろう。

②花もみな咲きぬれ²ど、音もせず。

梅の花もすっかり咲いたけれど、(梅が咲いたら帰ってくるといった母からは)何の音沙汰もない。

③河内へも行かずなり³にけり。

河内の国へも行かなくなってしまった。

(7) 次の各文の傍線部①～④が、完了であればA、強意であればBの記号で答えなさい。(各1点×4)

①黒き雲にはかに出で来ぬ^①。風吹きぬべし^②。

②この事かの事、怠らず成じてむ^③。

③京の花、盛りはみな過ぎにけり^④。

① A
② B
③ B
④ A

6 「ぬ」と「ね」の識別

(1) 「ぬ」と「ね」の識別に関して、識別対象になる4つの内容に答えなさい。(各1点×10)

①「打消」の助動詞「ず」
②「完了」の助動詞「ぬ」

③ナ行変格活用
動詞「死ぬ」、
「死ぬ」、
「死ぬ」の活用語尾

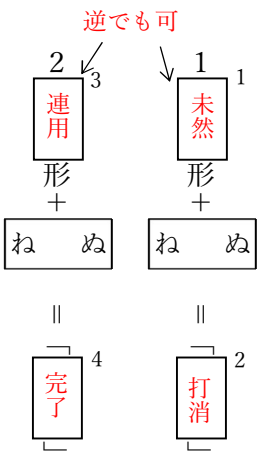
④ナ行下二段動詞「寝」の一部

(2) 「ぬ」と「ね」の識別に関して、「打消」と「完了」の見分け方は大きく分けて2つある。
その2つとは何か、次の説明文の空欄を埋めて答えなさい。(各1点×2)

「打消」と「完了」を見分けるには、「ぬ」と「ね」の「接続(上)」を確認する方法と、

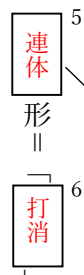
「ぬ」と「ね」の「活用形(下)」を確認する方法の2つがある。

(3) 「ぬ」と「ね」の識別に関して、「打消」と「完了」の見分け方を説明した次の内容の空欄を埋めなさい。
「打消」と「完了」の見分け方」
「上」↓「下」(各1点×2)



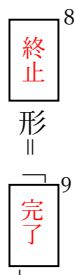
☆「ぬ」

1 ぬ + 連体形接続の語



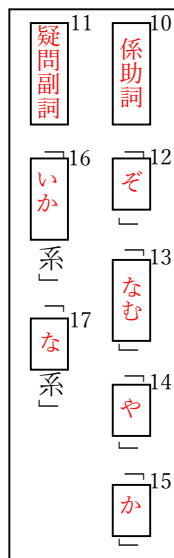
2 ぬ +

終止形接続の語



*ただし、文末の「ぬ」の時、係助詞と疑問副詞に注意！

文中に

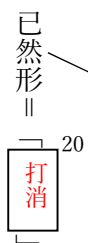


がある↓文末の「ぬ」は



☆「ね」

1 ね + 已然形接続の語



2 ね + 「」。

命令形接続の語

命令形

完了

*ただし、文末の「ね」の時、

係助詞「こそ」

に注意！

(4) 次の各文の傍線部「ぬ」と「ね」が、打消の助動詞「ず」の活用形であればA、完了の助動詞「ぬ」の活用形であればBでそれぞれ答えなさい。(各1点×8)

① 駿河の国に至りぬ^①。

② うらやましからぬ^②もの。

③ 桃李物言はね^③ば。

④ とく帰り給ひね^④。

⑤ 腰なむ動かれぬ^⑤。

④ 潮満ちぬ^⑥。風も吹きぬ^⑦べし。

⑤ 今まで散らぬ^⑧もあり。

A^① B^① A^① B^① A^① A^① B^①

B^①